

景観まちづくりワークショップの第5回を開催、先進事例を学び、 これからの方向性を議論しました！！

雑賀崎・田野・和歌浦地区の景観まちづくりをどのように進めていくか、について話し合う景観まちづくりワークショップの第5回を、4月15日(日)に双子島荘で開催しました。

今回は、これまでに出されたテーマに関連する他都市の事例を学び、その上で今後の景観まちづくりの方向性について意見を交わしました。



ワークショップのプログラム等の説明

はじめに、都市整備課の中西課長からあいさつを行いました。

続いて、景観ルール、景観形成に取り組む活動団体、地域の魅力 PR・情報発信、の3つのテーマについて、他都市の先進事例を勉強しました。

景観ルール：湾の景観の美しい名勝（天橋立周辺）、漁村の景観（京都府伊根町）、歴史的な景観（鎌倉市）の景観ルール

活動団体：御堂筋地区景観協議会（大阪市）、「紫川で、会いましょう。」実行委員会（北九州市）、NPO 法人新町川を守る会（徳島市）、風景づくりフォーラム（世田谷区）

情報発信：ポータルサイト（「紫川がどっとこむ」北九州市）、「食」をテーマにした取り組み（「御饌^{みけどん}丼」伊勢市）、婚活とスポーツを切り口にした取り組み（「婚活ノルディックウォーキング」生駒市総合型地域スポーツクラブ）

ワークショップの全体コーディネーターの下村 泰彦先生からお話を頂きました。

- ・これまで、地域の景観のいいところを再認識する作業を行ってきました。これからどうしていくかを考える時が来ています。
- ・景観ルールについては、天橋立のゾーン分けが参考になります。和歌浦の景観と、田野・雑賀崎の景観は、それぞれ特徴が異なるというのは、これまで話し合ってきたとおりです。それぞれに応じたルールをつくっていくことが大切です。
- ・活動団体の事例では、すでに取り組んでいるよと感じられた方もいらっしゃるかもしれませんが、実は団体にもいろいろな形があり、井戸端会議のように「寄り集って仲良く楽しくまちづくりする会」のような、気軽な会でもいいと思います。風景は大切だという気持ちを、みんなで共有できる場があればいいですね。

参加者から質問がありました。

- ・景観のルールづくりには、どのくらいの時間がかかるのでしょうか？

→細かい基準を決めていくとなると、紆余曲折もありますし、数年はかかるかもしれません。大切なことですから、みなさんの意見を聞きながら、地域の景観に即した基準を考えていきたいですね。

ワークショップ

参加者が4つの班に分かれて、先進事例を参考にしながら、今後の方向性を話し合いました。

A班：大道さん、池田さん、山野さん、中井さん、堀畑さん、青山さん、西山さん

●何のための景観づくりかを明確にする

- ・観光のための景観なのか、気持ちの良い生活のための景観なのか。
- ・観光のためと言い切ってしまうと、メリットのある人は理解できるが、観光化を望まない人は協力してくれないのでは。
- ・生活のための景観なら、防災などの、現在直面している問題の解決につながるような取り組みにしていきたい。

●地区の特徴を活かし伸ばす

- ・天橋立周辺の例だと、天橋立という核になるものが存在しているので、その周辺の景観形成も進むし、観光地としてもうまくいく。
- ・和歌浦は資源があるとして、田野・雑賀崎の魅力はこれから磨いていく必要がある。
- ・雑賀崎の景観は「エーゲ海」、田野は「純和風の漁村」、など、テーマをしっかりと打ち出していくのはどうか。

●景観のルールづくり

①新築・改修の動きを事前に知って手を打つ

- ・すでに建ってしまった建物には、打つ手がなさそう。事前に届け出る（もしくは許可制にする）のがいい。
 - ・建設業者がルールを熟知しておいて、建築主に対してアドバイスするのが理想的。
- ともかく、現行の制度と、できることをきちんと勉強したい。

②色彩感覚は十人十色

- ・壁面や屋根の色については、明るい色・派手な色でも感じ方は様々。立地や周辺環境にもよる。ルールとして基準をつくるのは大変そう。
- ・奈良では「奈良らしい色」を定めているらしい。「和歌の浦らしい色」を考えることができれば素敵。

③景観のアドバイスをしてくれる人が身近にほしい

- ・「景観パトロール」を随時行って、地域の景観を見守る存在がいればいい。犬の散歩をしながら目を配る程度の気軽さの方が長続きする。
- ・地元の事情をよく知る人がたとえば支所にいて、景観についての専門的なアドバイスをしてくれれば、身近に相談できて心強い。

●その他

- かつてのように遊覧船を定期運航して海から岸の眺めを堪能できればいい。
- 雑賀崎灯台周辺がより公共的な場になっていけば人が集まりやすくなる。
- レンタサイクルの拠点を近くに設けて、散策しやすくする（遊歩道の活用も）。
- 和歌浦でポイ捨て禁止条例のようなルールを設けて、住民が行っている清掃活動に加えて良好な環境づくりをしていきたい。
- 喫緊の課題として、危険な廃屋への対応を進めていきたい。

B班：土山さん、松井さん、松本さん、小倉さん、小嶋さん、前田さん

●ルールづくりについて

①地域の特徴を踏まえたルールづくり

- 和歌の浦地区全体を一律同じルールを定めるのは望ましくない。例えば、雑賀崎は陸屋根でコンクリート造の建物が多い、田野は傾斜屋根の建物が多いなど、何かしらの特徴がある。そういった地域の特徴を活かしたルールづくりが必要。
- また、和歌の浦地区の特徴である海岸美や山なみといった景観を守るために、屋外広告物や建物等の色の使い方などはベースとなるルールがあっても良い。

②「建物等のルール」と「生活/くらしのルール（作法）」

- 一方、建物の規制・誘導によって美しい景観が保たれても、それが必ずしも地域を良くすることにはつながらない。地域の人たちが気持ち良く暮らすことのできる「生活のルール/くらしのルール（作法）」のようなものも考えていく必要がある。

●ブランドづくり

①時間をかけてブランド力を醸成することが大切

- (事例にあった) 鎌倉はなぜ人を惹きつけるのか? 「歴史的なまちなみ」「美味しい食べ物(名物)」などあると思うが、やはり潜在的に根付いているブランド力ではないか。
- この地域でもそういったブランド力を時間をかけて醸成していくことが必要。

②女性をターゲットしたブランドづくり

- 和歌浦は風光明媚な場所で癒しのスポットになりうる。そういう路線で女性をターゲットにすることが出来るのではないか。
- 「食」も大切。しらすやアジアカエビも美味しいが、ややインパクトに欠ける。もう少し高級感がある「食」の目玉づくりが出来ないか。

③地域の伝統や風習を大切にす

- 和歌浦地区は歴史的な資源が多くあり、祭事も根付いているが、近年はなんとなくおざなりになっている印象。
- 特に、若者の間では「祭り・伝統文化」に対する意識が低くなっている。もっと地域の伝統や風習といったものを大切に感じられるような取り組みが重要ではないか。

●その他：言葉を守ること＝地域を守ること

- ・他の班で「方言」を大切にするという話が出ていたが、面白いと感じた。方言のような地域に根差した文化を守ることは、すなわち地域を守ることに繋がると思う。そういう方面からのアプローチも大切にしたい。

C 班：林さん、池田さん、宮下さん、小泉さん、前田さん、中野さん

●ルール作りについて

- ・てんぐ山からみた景色など、守っていきたい眺望がある。
- ・(事例紹介であった)天橋立のようにエリアで区切って考えたほうがいい。
- ・エリアを分けて考えるといっても、エリアが広すぎると色々な意見が出てきて、まとまらなくなる。
- ・漁村の集落と、自然公園では当然考え方が違う。
- ・漁村の地域は今はまだきれいだが、現在は規制がかかっていないようだ。

●これからの活動について

- ・これから建つものの規制というよりは、今あるものを維持していくという考え方でありたい。
- ・トイレの維持管理や、豊かな自然の保全ができるような仕組みを作る。
- ・目的別に組織を作って、検討してはどうか(設備のこと、観光のこと等)。
- ・現在活動しておられる団体などの横のつながりをつくる、情報交換の場が必要。
- ・プラットフォームと小さな WG ができればいい。

●行政との関わりについて

- ・空き家を紹介してこの地域に人を来てもらうという活動をしているが、このような活動は地元の人しかできない。県には担当の課があるが、市にはそういったものはない。
 - ・行政との関わりをどうするか、行政をいかに活用していくか考えないといけない。
 - ・小さな組織(自治体単位など)での活動は出来ないか。
 - ・景観の協議会のようなものは出来ないか。
- いま社会福祉協議会に入っているが、お金がなくて何もできない。協議会を作ってもそれがどこまでできるのか、不安に思う。

●生活と景観

- ・伊根町の事例もあったが、漁業がないと漁村のまち並みは守れない。
- ・漁業をしている人には職住近接で住めるが、そうでない人は漁村の生活が不便で出て行ってしまふ。
- ・まちづくりを考えるにあたって、「生活を守ること」も大切。そういう意味では、「現在の課題を考えるチーム」と「将来の課題を考えるチーム」に分かれて、検討してはどうか

D 班：唐門さん、中筋さん、中口さん、茶畑さん、西口さん、中西さん、前田さん

●ルールづくりについて

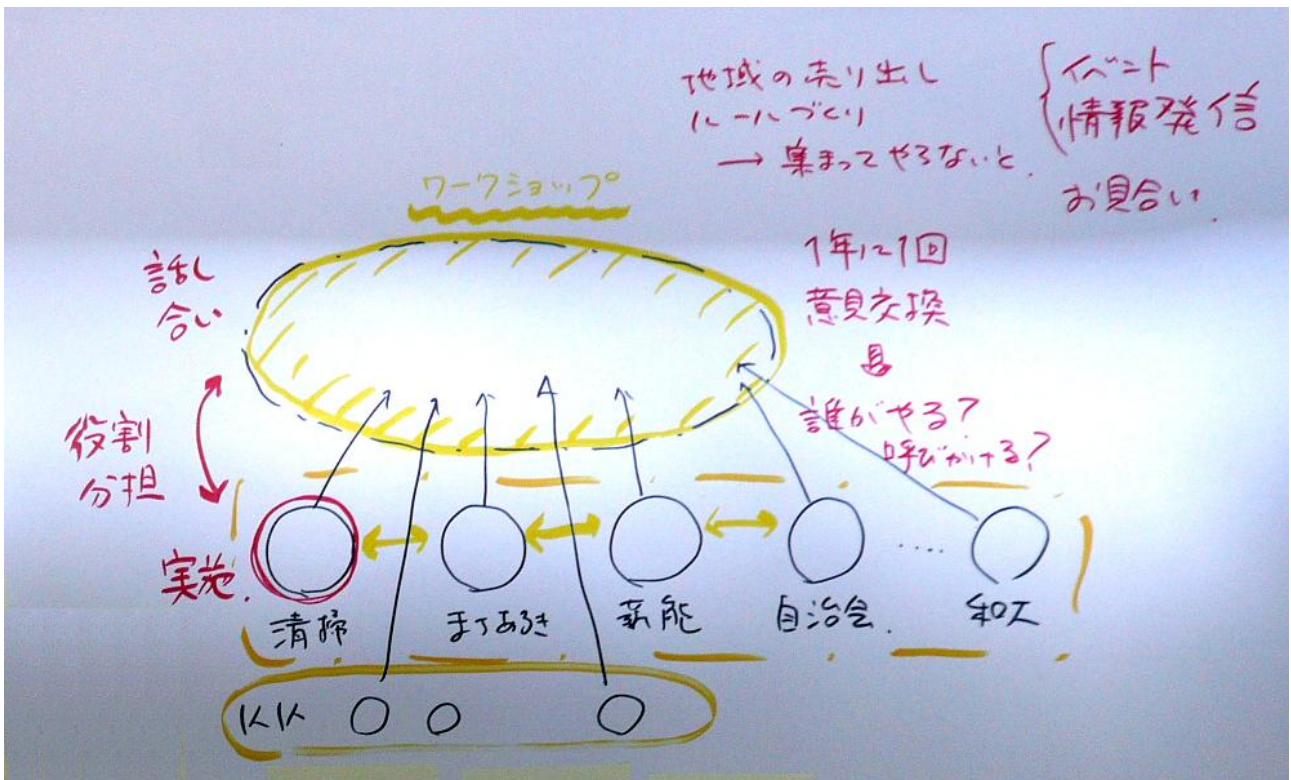
- ・和歌浦地区は多用途が混在しているので、天橋立のようにいくつかのゾーンで考えるべき。とりわけ眺望景観は重要である。

- 自然景観は共通財産として認識されているが、人間の営みが関わるところは歴史的な背景も違うのでできている景観も違う。個々の特色を生かしたルールを考えるべき。

●活動の連携について

①和歌浦全体のプラットフォームづくり

- 個々の活動はそれぞれの興味・関心で動いているが、和歌浦の活動が積み重なってきた過程で、次の段階へ移行しようとしている。
- 個々の活動を無理にまとめようとしても主導権争いになりかねない。1年に1回程度ゆるやかに集まり意見交換をする場があれば良い。
- まさしくこのワークショップがその場ではないか。
- 外の人材・機関と連携する形もあり。和歌祭は和歌山大学と連携している。
- 地域のイメージ発信やルールづくりは全体で集まってやらないといけない。また、地域全体でのイベントや情報発信も担うべき。
- やはり情報は全体で発信していかないと、外からみても非常に分かりにくいし、学生など新しいメンバーが入ってこない。
- 既存の活動をどうつないでいくか、それらをどう支えるか（人・もの・金）が重要。ボランティアだけでは限界。活動を支援する事務局機能が課題。
- こうした場を誰がやる、呼びかけるのかも課題。市が呼びかけるのか、地域の有志が呼びかけるのか。



②担い手の拡大

- まちづくりを担う人づくりが重要。地域の人に参加し、住み続けたいと思ってもらうところへどうつなげていくか。
- いろんな参加の仕方があり、隣近所からできることも考えるべき。例えば、花を飾るような暮らし

しのルールをつくるなど。地域で維持・管理できる取り組みも必要。

- 資源保護と景観といったように身近なところと景観がつながる取り組みが大事。クリーンアップも小さなところから積み重ねていっているのであり、それらを継続していく。
- 企業も地域との共生が重要視されている。沿岸部の企業なども協力してくれないか。

●地域のPR・発信について

- 和歌浦はいろんな特色がある地域なので、それをうまく発信する必要がある。
- 自然だけではダメで、付加価値を付けて対外的にPRすべき（漁師町のPRなど）。
- 若い人、学生などが興味を持つような売り出しが必要（市内で学生が発行しているフリーペーパー、婚活など）。
- 「連れもていこら」ウォーキングというのを開催している（年輩向け）。
- 「ここに来ればこういう観光ができる」というのをセットでPRしないと足が向かない。
- 和歌浦のホームページがないので、情報が得にくい。

発表

各グループのメンバーが、話し合った内容を発表しました。

最後に、下村先生からコメントがありました。

- 発表を聴いていると、景観についての一定のルールが必要だという話と、これから景観まちづくりを行っていく協議会のような場が要するという話が出たかと思います。
- 景観ルールについては、厳密な基準のほかに、日々の暮らしの中で守っていくいわば「ゆるやかなルール」という考え方もあります。その方が幅広い人に共有してもらいやすいという特徴があります。そのようなルールを「作法集」としてまとめている事例もあります。
- 活動団体や、協議会については、まずは市役所が場を設けて、その中に色々な団体や人が参加して、情報発信やその他さまざまな取り組みをしていくとおもしろいのではないのでしょうか。

次回は、5月27日（日）を予定しています。より掘り下げて考えていくため、テーマごとに班を再編成することになりました。地域の将来イメージと、それを実現するための手段や方法など具体的な話をしていく予定です。次回もよろしくお願いいたします。

●事務局・問い合わせ先

和歌山市 まちづくり局 都市計画部 都市整備課

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地

Tel : 073-435-1082 Fax : 073-435-1367 E-mail : toshiseibi@city.wakayama.lg.jp